

## 講座型

## 焼津市家庭教育ネットワーク（静岡県）



## 【設立経緯】

- 平成10年4月に静岡県から「子育てグループ事業」の提唱があり、家庭教育支援チームを組織。それ以前にも子育てグループは存在していたが、全ての学区にグループを設置し、各グループ間の交流を図ることを目的とした。

## 【構成員】

- 現在、コーディネーター（各子育てグループへの協力・援助・助言を行う者）など4名で活動している。

## 【活動内容】

- 未就学児とその親を対象とした親子参加型の家庭教育講座「親子のつどい」や、父子の触れ合いを目的とした「父親講座」などを開催。講座の内容は、食育や工作などをテーマに、保護者のニーズに合わせ、年度ごと協議し決定している。
- 市内小学校13校全ての就学時健診で、「基本的生活習慣と親子のコミュニケーション」をテーマとした講演会を運営している。
- 社会教育課主催の子育てグループと連携し、参加している保護者の相談対応や活動の見守りをしている。

## 【効果】

- 講座等については、広報紙や市ホームページの利用、チラシ・ポスターの掲示を市内公共施設や民間企業（銀行等）に依頼などを行い、周知しており、地域ぐるみで家庭教育支援に取り組む気運が醸成されつつある。

## 【年間予算規模・活用事業】

- 平成30年度の予算は2,195千円、家庭教育ネットワークに対する謝礼・連携している子育てグループの活動などに活用。

## 【問合せ先】

- 焼津市教育委員会社会教育課 社会教育担当 ☎：054-662-0511





## 南魚沼市家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」 (新潟県)

### 【設立経緯】

- ・ 平成20年度より、文部科学省のモデル事業における補助を活用して、家庭教育の充実を目指し家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」を設置。  
子育てに不安や悩みを持ち孤立しがちな保護者、家庭教育について学ぶ機会のない保護者への支援を目的に活動を開始。  
現在は市内4つの小学校と1つの総合支援学校内を拠点に活動している。

### 【構成員】

- ・ 「だんぼの部屋」には、学校の保護者、元保護者など18名から成る、地域コーディネーター（兼家庭教育支援員1名）と家庭教育支援員などを配置。

### 【活動内容】

- ・ 保護者が気軽に立ち寄って子育ての悩みや日頃の思いをつぶやいたり話することができる「しゃべり場サロン」を開設。孤立しがちな保護者が「ほっと」できる場所を提供している。
- ・ 親子参加型の料理教室やもの作り教室等を開催し、親子で楽しみながら交流を深める機会を提供している。
- ・ 広報紙を年10回程度発行し、情報発信に努めている。

### 【効果】

- ・ 保護者が気軽に立ち寄ってつぶやける場所を提供できている。
- ・ 親子料理教室やもの作り教室を通じて親子や参加者で共同作業することにより、ふれあいの輪が広がっている。

### 【年間予算規模・活用事業】

- ・ 年間予算：1,680千円（平成28年度実績）
- ・ 活用事業：新潟県学校・家庭・地域の連携促進事業

### 【問合せ先】

- ・ 南魚沼市教育委員会 子ども・若者育成支援センター  
住所：〒949-6772  
新潟県南魚沼市二日町428番地1  
☎：025-773-6611 / ファックス：025-773-6632





### 湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」(和歌山県)

#### 【設立経緯】

- ・ 以前より非行や万引き、校内暴力などの虞犯行為や、授業妨害等の反社会的な問題行動が多くみられ、担任や学校だけでは解決できないような課題が多かった。そこで平成20年度にSSWを配置、平成21年度より訪問型家庭教育支援を始めるに至った。

#### 【構成員】

- ・ 現在は、チームリーダー(SSW兼務)、サブリーダー、アドバイザー、訪問支援員(13名：元校長・教員、主任児童委員、民生・児童委員、母子保健推進委員、栄養士、読み聞かせボランティア、地域住民等)の計16名で活動。

#### 【活動内容】

- ・ 0歳児から中学校3年生までの全ての子育て家庭を家庭教育情報誌「すまいる」を配布しながら訪問し、子育てに関する相談から世間話まで幅広く傾聴することで、保護者に寄り添い、孤立した家庭がないよう見守り支援を行っている。そのことによって、問題の未然防止や早期発見・早期対応につながっている。
- ・ 家庭・学校や地域、関係機関からの情報や相談の対応及び支援については、ケースに応じて、学校や関係機関と常に連絡を密にし、役割分担をしながらチーム対応を行っている。
- ・ 利用者支援事業を活用することで、「福祉(医療・介護・保健)と教育の一体型」で切れ目のない子育て支援を行う体制を整えている。

#### 【効果】

- ・ 全世帯の状況把握が可能で、早期発見や迅速な対応につながる。
- ・ 気になる家庭に対して、継続的な支援や見守りが可能となる。
- ・ 全戸訪問のため、初回の訪問がスムーズに行える。
- ・ 定期的に訪問するため、保護者にとっては、いつでも相談できるという安心感につながっている。
- ・ 保護者と話をすることで学校への不信感などが解消され、クレームが減少してきている傾向にある。

#### 【年間予算規模・活用事業】

- ・ 厚生労働省の「利用者支援事業」を活用(平成29年度予算額720万円)
- ・ 文部科学省の「先駆的家庭教育支援推進事業」を活用(平成29年度予算額130万円)

#### 【問合せ先】

- ・ 湯浅町教育委員会 ☎：0737-63-1111 <http://yuasa.ed.jp/publics/index/20/>



## 訪問型(ターゲット型(希望家庭対象))



### 白老町家庭教育支援チーム「ぴんぼーん」(北海道)

#### 【設立経緯】

- ・ 地域における家庭教育を支援するため、平成21年4月に、文部科学省の補助事業を受け家庭教育支援チームを設置。

#### 【構成員】

- ・ チームリーダー(子育てNPO法人の代表)、元教員、子育てサポーター2名の4名で活動している。

#### 【活動内容】

- ・ 全ての乳幼児定期健診で聞き取り調査を行っているほか、2年に一度、保育所・小学校等の全保護者を対象にアンケート調査を実施し、家庭訪問の意向を確認した上で、希望者への訪問型相談活動を行っている。
- ・ 月に一度、支援チーム会議を実施し、必要があれば町健康福祉課や教育関係機関との連携に努めている。
- ・ 全町民対象の子育て講座を年2回開催しているほか、学校の授業参観や各種研修会等での講演活動も行っている。

#### 【効果】

- ・ 訪問相談の日時や場所の設定を利用者の希望に応じているほか、寄り添った傾聴やアドバイスを行うことで、子育ての悩みやストレスを軽減させるなどの大きな効果を出している。
- ・ 乳幼児の頃に利用した保護者が、子供の成長に伴い再度相談を希望するなど、継続的な支援に結びついている。
- ・ 家庭教育の重要性を繰り返し伝えることで、保護者の意識が高まり、子育てに関する研修会に父親や祖父母が参加するなどの波及効果も出ている。
- ・ 関係機関と連携することで、虐待の予防にもつながっている。

#### 【年間予算規模・活用事業】

- ・ チーム員賃金、外部講師謝礼金、消耗品、携帯料金等で年間50万円程度。

#### 【問合せ先】

- ・ 白老町健康福祉課 子育て支援室 ☎：0144-85-2021  
支援チーム直通 ☎：090-1528-9018





## 高萩市家庭教育支援チーム (茨城県)

### 【設立経緯】

- ・ 平成28年度より、文部科学省の委託事業を活用し、家庭教育支援チームを設置。
- ・ 事業開始直後は学校関係者や保護者の認知度が低く、事業の内容が理解してもらえず、なかなか支援対象者を選定できなかった。家庭教育支援員の多くが元校長や元教員であることやあくまでも学校が第一で、その支援をサポートする趣旨であることを粘り強く学校側に説明し理解を求めた。

### 【構成員】

- ・ 元校長 (7名)、元教員 (3名)、児童養護施設職員 (1名)、適応教室指導員 (1名) の12名で活動。

### 【活動内容】

- ・ 地域人材の活用や学校・適応指導教室等と連携し、学校だけでは支援が困難な家庭を対象とした、訪問型家庭教育支援事業を実施。
- ・ 保護者及び児童生徒の話を傾聴し、寄り添いながら「学校と家庭をつなぐ役割」及び「課題の早期発見・未然防止」・「専門機関への橋渡し」をすることを目的としており、主に中学校から支援要請のあった不登校児童生徒を中心に支援している。
- ・ 平成29年度からは、市内2つの中学校に拠点校支援員を配置し、情報の共有や課題の早期発見に努めている。また、小学校1年生の家庭を全戸訪問し、保護者の不安や悩みなどを伺い、深刻な事例になる前の早期対応を行っている。

### 【効果】

- ・ 平成28年度からの継続支援者7名と平成29年度の新規支援者3名に対して、平成30年1月現在延べ171回の家庭訪問を行った。数回の訪問で不登校が改善したり、根気強く傾聴し不登校のきっかけを知ることで対処したケースもある。

### 【年間予算規模・活用事業】

- ・ 平成28年度200万円、平成29年度140万円。  
文部科学省委託事業

### 【問合せ先】

- ・ 高萩市教育委員会学校教育課 ☎：0293-23-1135 ファックス：0293-23-1126  
メール：gakkou@city.takahagi.lg.jp





### いちき串木野市家庭教育支援チーム「ほっとルーム」(鹿児島県)

#### 【設立経緯】

- ・平成20年10月より、文部科学省の補助事業を利用して家庭教育支援チームを設置。当時、中学校の不登校生徒が多かったことから、小学生の頃から保護者と接していく必要性が高まっていたこと、また当時のアンケートで子育てに不安のある家庭が20%に上ったこともあり、孤立しがちな保護者のサポートのために訪問型の家庭教育支援を開始した。

#### 【構成員】

- ・退職校長、元PTAの副会長(3名。読み聞かせボランティアも含む)、母子保健推進員の5名で活動をしている。

#### 【活動内容】4項目の支援活動

##### ○支援活動1【相談活動】

- ・市内全小学校の1年生長子家庭訪問…年3回 2年生の長子家庭訪問…年1回
- ・「ほっとルーム」の出前サロン、「おあしす」の開設…小学校、保育園等対象
- ・「ほっとルーム」における相談活動(電話・来室)

##### ○支援活動2【広報・アンケート・連携・研修】

- ・「ほっとルーム」だよりの発行(民生委員・児童委員・市内全小・中の長子家庭・商工会等への配布)
- ・家庭教育に関するアンケート調査の実施(年1回)…市内全小学校対象
- ・家庭教育支援連絡協議会の開催(年2回)・子育て支援研修会等への参加
- ・本事業の周知を図るための説明会の実施(入学説明会等)
- ・関係課等との情報交換、連絡会…福祉課、健康増進課、学校教育課、民生委員・児童委員、SSW

##### ○支援活動3【家庭教育学級等への参加・取材活動】

- ・市内全小学校の家庭教育学級や読み聞かせ会の取材活動
- ・各地区女性連が行う母親学級等への訪問・取材活動

##### ○支援活動4【企業等との連携活動】

- ・「ほっとルーム」だよりの配布…いちき串木野商工会議所・市来商工会・青年会議所・事業所等への配布
- ・「ほっとルーム」だよりの原稿依頼・企業代表を、連絡協議会委員に委嘱

#### 【効果】

- ・家庭、地域、学校、企業などの橋渡しを行う中で、連携した家庭教育支援ができています。

#### 【年間予算規模・活用事業】

- ・1,741千円

#### 【問合せ先】

- ・家庭教育支援チーム「ほっとルーム」【いちき串木野市教育委員会社会教育課内】  
☎：0996-21-5130